

2024年5月12日 礼拝説教要旨

ハイデルベルク信仰問答講解説教Ⅱ 46 「神の子たちの祈り」

エレミヤ23：23～24、ローマ8：31～34

問120なぜキリストはわたしたちに、神に対して「われらの父よ」と呼びかけるようにお命じになったのですか。

答 この方は、わたしたちの祈りのまさに冒頭において、わたしたちの祈りの土台となるべき、神に対する子どものような畏れと信頼とを、わたしたちに思い起こさせようとなさったからです。言い換えれば、神がキリストを通してわたしたちの父となられ、わたしたちの父親たちがわたしたちに地上のものを拒まないように、ましてや神はわたしたちが信仰によってこの方に求めるものを拒もうとなさらないということです。

ここで注目したいのは、「神がキリストを通してわたしたちの父となられ」という部分です。神さまがその独り子イエスさまを通して、わたしたちの父となられた。そのことを信仰問答は「祈りの土台」と表現します。神さまを父と呼ぶ。それはわたしたちが神の子であり、そこに父と子の人格的な交わり、関係があることを示します。この父と子の交わりこそ聖書の伝える救いの本質と申し上げてよいでしょう。

もちろん、わたしたちはそのままで神さまを父と呼べるような存在ではありません。むしろ神さまに背き敵対していました。信仰問答でも、「わたしは神と自分の隣人を憎む方へと生まれつき心が傾いている」（問5）と告白いたします。アダムとエバが神さまとの約束を破り、その関係は最初から破綻していました。それが人間の罪です。そのわたしたちが神さまに向かって「父よ」と呼ぶことができるのは、他でもない、イエスさまの救いによるものです。イエスさまの十字架とよみがえりの御業によって、わたしたちの罪は赦されました。パウロは次のように述べております。「天地創造の前に、神はわたしたちを愛して、御自分の前で聖なる者、汚れのない者にしようと、キリストにおいてお選びになりました。イエス・キリストによって神の子にしようと、御心のままに前もってお定めになったのです。神がその愛する御子によって与えてくださった輝かしい恵みを、わたしたちがたたえるためです。わたしたちはこの御子において、その血によって贖われ、罪を赦されました。これは、神の豊かな恵みによるものです」（エフェソ1：5～7）わたしたちが「父よ」と呼びかけ祈るのは、何よりも神さまの深い恵みを表しています。それゆえ信仰問答は「祈りは感謝の最も重要な部分」（問116）と言いますが、このように祈ることができるのは感謝以外の何ものでもありません。

しかし、このことは何度かお話ししていることですが、この「父」という表現に抵抗を感じる人がいます。現代のジェンダー平等の時代にそぐわないとか、家父長制の時代を彷彿させるとか、そういう理由であえて「父」という呼びかけを避ける傾向があります。これはとても残念なことです。「父」という表現は、人間の父親というより、それは三位一体の父・子・聖霊の「父」であり、イエスさまと父なる神さまとの関係を表しています。福音書でイエスさまが洗礼をお受けになられるときに、聖霊が鳩のように降り、「これはわたしの愛する子、わたしの心に適う者」（マタイ3：17）という声が天から聞こえたとあります。父なる神さまから「わたしの愛する子」と呼びかけられ、イエスさまも「アッバ、父よ」（マルコ14：36）と呼びかける。洗礼を受けてイエスさまに結ばれることによって、この愛の交わりの中にわたしたちも迎え入れられます。だからこそ「父よ」と呼びかけることができる。これは洗礼を受けた者だけに許された恵みの特権なのです。

祈りは、決して人間単独の行為ではありません。イエスさまに合わせられ、そのつながりの中でわたしたちは祈ることができます。「イエスさまによって」「イエスさまの名によって」と祈ります。イエスさまに結ばれて神さまの子とさせていただく。イエスさまと一緒に「父よ」と神さまに呼びかけているのです。イエスさまがこの拙い祈りを助けて御前に届けてくださいます。これほど心強いことがあるでしょうか。

最近、「アタッチメント」ということが言われます。これは親と子の間に築かれる基本的信頼関係のことです。このことは発達心理学や幼児教育の分野においては常識です。0～3歳の間にいかに基本的信頼を築くか。それがその後の人格形成に大きく影響すると言われます。無条件に親に受け入れられていることで子どもは安心します。例えば、泣けばすぐ親が飛んでくる。オムツを替えてくれる。これもアタッチメントですが、そうやって助けてくれる安心感があるだけで、心身ともに子どもは安心し健やかなのです。人を信頼し、また人からも信頼される。そういう人格形成は、そのような親子関係から始まっています。

祈りは、神さまと親子の関係を結ぶ証しです。ここに最高のアタッチメントがあります。人間の親は、時々裏切るかもしれない。けれども神さまは裏切らない。信仰問答にも「わたしたちの父親たちがわたしたちに地上のものを拒まないように、ましてや神は、わたしたちが信仰によってこの方に求めるものを拒もうとなさらない」とあります。良いものをくださる。その証拠にイエスさまをくださった。そして親子の関係を結んでくださった。ここに最大のことがあります。そしてそのようにしてくださったお方は天におられる全能の神さまなのです。そこで次の問答に続きます。

**問121**なぜ「天にまします」と付け加えられているのですか。

**答** わたしたちが、神の天上の威厳については何か地上のことを思うことなく、その全能の御性質については体と魂に必要なことすべてを期待するためです。

天におられる全能の神さまが、わたしたちの体と魂に必要なことすべてを備えてくださる。そのようなお方がどこまでも近くに、親しく「父よ」と呼べる関係を結んでくださった。そのお方の懷に包まれてわたしたちは安心して生きていけるのです。ローマの信徒への手紙を読みました。「もし神がわたしたちの味方であるならば、だれがわたしたちに敵対できますか。わたしたちすべてのために、その御子をさえ惜しまず死に渡された方は、御子と一緒にすべてのものをわたしたちに賜らないはずがありませんか」(8：31～32) この信頼の中で祈れることが、どのような試練の中でもわたしたちの心を支えるでしょう。

天の父よ。あなたに「父よ」と呼びかけ祈ることのできる幸いを覚えます。そのために尊い独り子をあなたは与えてくださいました。そのように命がけで親子の関係を結んでくださったのです。どうぞその恵みを無駄にすることがありませんように。心から喜び「父よ」と祈る者とさせていただきます。主の御名によって祈ります。アーメン。